

# 平成27年度 大阪府立大学 授業公開講座(前期)

番号	講座名	講師	曜日	コマ	定員	開講日
1	公衆衛生学 I	星 英之	月	1	20	4月13日
2	中国古典語 I	大平 桂一	月	2	5	4月13日
3	医療福祉論	山中 京子	月	3	10	4月13日
4	ジェンダーとヨーロッパ文化	村田 京子	月	4	5	4月13日
5	ことばの意味と文化	宮畑 一範	月	4	5	4月13日
6	ドイツ語中級C I (読解)	兼田 博	火	3	5	4月14日
7	教育福祉学への招待	田間 泰子	火	4	10	4月14日
8	科学の思想	斎藤 憲	水	2	35	4月15日
9	平和学の視点	山崎 正純	水	2	5	4月15日
10	生涯学習概論	森岡 次郎	水	3	5	4月15日
11	国際文化の視点	萩原 弘子	水	4	3	4月15日
12	公的扶助論	嵯峨 嘉子	金	1	5	4月10日
13	環境生物学	中山 祐一郎	金	2	10	4月10日
14	共生社会と宗教	秋庭 裕	金	3	5	4月10日
15	地域福祉論A	小野 達也	金	3	10	4月10日
16	マイノリティと文化システム	萩原 弘子	金	3	3	4月10日
17	心の病理学	総田 純次	金	4	8	4月10日

1コマ: 9時00分～10時30分 / 2コマ: 10時40分～12時10分 / 3コマ: 12時55分～14時25分  
 4コマ: 14時35分～16時05分 / 5コマ: 16時15分～17時45分

**会場** 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

**対象** どなたでも(全期間を通じて受講できる方)

**受講料** 1講座 3,000円

(一旦お支払いいただいた受講料は、返金いたしかねますこと、ご了承ください。)

**申込方法** 「ハガキ」又は「Eメール」に、①ご希望の講座名、②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな)・年齢 ④電話番号 を記入の上、3月9日(月)《必着》までに、下記宛先へ。

※申込者多数の場合は抽選にて受講者を決定します(結果については全員に通知します)

**※お一人様1通のみ**

**申込先** 〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 地域連携研究機構 生涯教育センター「授業公開講座」係  
 e-mail: jkz27@ao.osakafu-u.ac.jp (半角英数) ※携帯メール不可

**問合せ先** TEL: 072-254-9942 (生涯教育センター) © 講義概要については、裏面をご覧ください



# 大阪府立大学 授業公開講座 平成27年度 前期

この授業公開講座では、本学の授業科目の一部を一般の皆さまに公開し、学生とともに授業を受けていただける講座となっております。皆様のご参加をお待ちしております。

平成27年 4/10(金) ～ 平成27年 7/31(金)  
各15回(予定)



- ◆公衆衛生学 I
- ◆生涯学習概論
- ◆中国古典語 I
- ◆国際文化の視点
- ◆医療福祉論
- ◆公的扶助論
- ◆ジェンダーとヨーロッパ文化
- ◆環境生物学
- ◆ことばの意味と文化
- ◆共生社会と宗教
- ◆ドイツ語中級C I (読解)
- ◆地域福祉論A
- ◆教育福祉学への招待
- ◆マイノリティと文化システム
- ◆科学の思想
- ◆心の病理学
- ◆平和学の視点

※お申込の際の個人情報、申込後の事務連絡、統計資料等の作成及び本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

## 平成27年度 大阪府立大学 授業公開講座(前期)【講義概要】

講座番号 1:「公衆衛生学Ⅰ」（現代システム科学域）	星 英之 准教授
----------------------------	----------

公衆衛生学Ⅰでは、ヒトが健康であるために必要な疾病予防に関する全般的な知識について学びます。その中でも特に、健康に関する概念、環境と健康、疫学手法、主要な疾病の動向とその実践的な対策、さらに高齢者、母子など領域別の保健対策に関する基礎的な考え方を身に付けることを目標とします。

講座番号 2:「中国古典語Ⅰ」（高等教育推進機構）	大平 桂一 教授
---------------------------	----------

学習者向けに注釈が施された中国古典を講読しつつ、現代中国語文法との相違点や漢文訓読との関係などを学びます。同時に読解に必要な辞書、参考文献の利用法に習熟します。また、中国古典の読解を通じて現代中国を理解するために必要な中国文化の成り立ちに関する知見を得ます。

本年度は特に、中国の言語と文化に関わる歴代の散文を読んでいきたいと思います。『史記』『資治通鑑』『世説新語』『説文解字注』などを予定しています。なお講読は中国語及び漢文訓読法をもちいて行います。大平が作成した「中国語発音マニュアル」を用いて中国語の発音の基礎を身につけて頂いた上で、原文を中国語で音読いたしましょう。そうすることによってベルクソンが主張するように、作者の思想やそれを書いた時の精神状態に肉迫できると考えています。

講座番号 3:「医療福祉論」（地域保健学域 教育福祉学類）	山中 京子 教授
-------------------------------	----------

病気は人に身体的な苦痛や症状を与えるだけでなく、その人の心理状態、自己認識、家族関係、社会生活、将来の夢などにも影響を及ぼす包括的な経験です。それらをアーサー・クラインマンは「病いの経験」と呼んでいます。本講義ではまずこの「病いの経験」を時間的な流れに沿って多角的に検討します。その上で、それらの経験をしている人にとっての周囲からの支援の意味について考えます。また、周囲からの支援として、家族や友人などの私的関係における支援と専門職からの「公的關係」における支援を比較して検討します。特に、学期の中盤からは、ソーシャルワーカーの支援に焦点づけ、いろいろな種類の病院におけるソーシャルワーカーの具体的な活動と役割を考察します。

講座番号 4:「ジェンダーとヨーロッパ文化」（高等教育推進機構）	村田 京子 教授
----------------------------------	----------

フランス文学と芸術の関わりは深く、画家、音楽家、彫刻家を主人公とする芸術家小説をはじめとして、音楽や美術に関連する作品が多く見出せます。本講座では、絵画が19世紀フランス文学の中でどのように扱われているのか、とりわけ「近代小説の祖」と呼ばれるバルザックの作品を中心に見ていきます。文学作品で絵画が言及される場合、そこには芸術的要素だけではなく社会的要素、とりわけ人物像には「男らしさ」「女らしさ」に関する当時の社会的通念が無意識のうちに反映されています。こうしたジェンダーの視点からバルザックおよび同時代のロマン主義作家（ゴーチエ、サンドなど）の作品を取り上げ、絵画を通した文学作品の新たな読解を試みたいと思います。
教科書：村田京子『ロマン主義文学と絵画―19世紀フランス「文学的画家」たちの挑戦』、新評論

講座番号 5:「ことばの意味と文化」（高等教育推進機構）	宮畑 一範 准教授
------------------------------	-----------

ことばの意味は、異なる言語間で見比べた場合、文化の違いと結びつけた相違点が強調されがちです。しかし、実は共通する部分も非常に多く、残念なことにこれまでそれは見過ごされたり、あるいは、過小評価されてきました。この授業では、英語と日本語を対象に（これまでの英語教育の中で、英語は日本語とは異なる言語なのだから、根本的に発想を変えないといけない、と刷り込まれている人が多いと思いますが）実際には共通する発想がいかにか多いかを豊富な言語事実を踏まえて確認していきます。また、それが何を意味するかも考察していきます。
毎回トピックを定め、英語と日本語とでいかに発想(の大元)が共通するかを確認します。授業の理解度を確認するために、毎回のトピックに関連する内容で、類例を探したり、それに基づいて考察をするなどの課題に取り組んでもらいます。

講座番号 6:「ドイツ語中級CⅠ(読解）」（高等教育推進機構）	兼田 博 教授
---------------------------------	---------

アルベルト・シュヴァイツァー博士(1875-1965)は第一次世界大戦後のアフリカ大陸で活動し、「密林の聖者」と呼ばれました。またオルガン奏者、キリスト教学者としても有数の人でした。彼がペリカンの口を借りて物語った「ペリカンの生活と意見」は、読み物としてたいへんおもしろく、また博士の人道主義が感じられます。ただし白人優位思想が感じられなくもありません。この講座では本書をドイツ語原文で読み、ゆっくり日本語に直していきます。
**独検4級程度のドイツ語能力が必要です**。
後期は前期のつづきとなりますが、後期からの受講はできません。
テキスト:シュヴァイツァー「ペリカンの生活と思想」(プリント配布)

講座番号 7:「教育福祉学への招待」（地域保健学域 教育福祉学類）	田間 泰子 教授
-----------------------------------	----------

私たちの社会がさまざまな困難を抱える現代、従来の「社会福祉」や「教育」という縦割りの発想では、もはや解決できない状況となっている。教育福祉学類では、社会福祉や教育などの専門性を活かしながら、かつ協働によって人間を支援していくことのできる人を育てる、新しい取組みを行う。この科目では、そのための「招待」として、学類教員が順々に担当し、それぞれの専門分野から、現代社会の課題と教育福祉学的な人間支援のあり方について講義する。
講義テーマ例：地域、家族、精神障害、高齢者福祉、貧困、教育、特別支援教育、子ども福祉、セルフヘルプグループ、セクシャリティほか。

講座番号 8:「科学の思想」（現代システム科学域）	斎藤 憲 教授
---------------------------	---------

17世紀の近代自然科学の成立(科学革命と呼ばれます)に焦点をあて、自然現象を数学的法則が支配しているという信念と、それに基づく新しい科学がどのように成立したかを見ていきます。最初にアリストテレスが集大成した古代ギリシャの自然観を概観し、それが16,17世紀にどのように転換していったのかを検討します。大きな転換が起こったのは宇宙論と運動論ですが、とくに運動論に焦点をあて、アリストテレス的な運動論の近代的な運動論への転換を見ていきます。観察事実の蓄積や技術の進歩、数学の重視といった、いわば分かりやすい要因だけでなく、神秘思想や魔術といった要因も重要であったことにも触れる予定です。

## 平成27年度 大阪府立大学 授業公開講座(前期)【講義概要】

講座番号 9:「平和学の視点」（高等教育推進機構）	山崎 正純 教授
---------------------------	----------

すでに知られているとおり、日本の非軍事化はGHQによる初期占領政策によって推進される過程で、植民地・占領地の解放という次元に凍結された。すなわち、敗戦後の領土はポツダム宣言によって決定された既定性として与えられたのであって、日本帝国主義の脱植民地化そのものを、非軍事化と切り離された独自の課題として受け取る機会を逸失した。占領政策の転換後も、冷戦下に置かれた経済大国日本の役割の追求が、脱植民地化という未済の課題に向き合う条件を奪った。
現在日本国内に蔓延する〈愛国〉言説の背景には、帝国意識の亡霊を抱きしめた特殊な社会的構造がある。グローバル化する日常生活にフローする多様なモノ、ヒト、情報はそうした社会構造に対して、未済の過去の完了と終焉を確信させる現象として認知される。以上のような状況にあって、〈愛国〉言説の内なる偏見と差別とを問い直すためには、この種の言説と社会システムとの共謀関係を脱臼させる仕掛けが必要である。人文学・社会科学がこうした社会的コミットメントへの隘路をどう切り結ぶのか、その可能性について考えてみたい。

講座番号 10:「生涯学習概論」（地域保健学域 教育福祉学類）	森岡 次郎 准教授
---------------------------------	-----------

この講義では、現代の教育に関するトピックや課題について、多様な観点から考察を行う。ここでのポイントは、現代の私たちが持つ「学校」や「教育」という狭義のイメージにとらわれないことである。人間の誕生から老い、死にゆくプロセスまでを広義の「教育(発達)」にとらえ、家庭教育や社会教育を視野におさめながら、人間にとって教育とは何か、という大きな問いについて考える。そして、価値の多様性、文化の多様性という観点から、複眼的な視点で現代的課題について考察を進める。授業では講義のみならず、ディスカッション、グループワークなども数多く行う予定である。受講者には、受動的に講義を聞くだけではなく、積極的な授業への参加を求めたい。

講座番号 11:「国際文化の視点」（高等教育推進機構）	萩原 弘子 教授
-----------------------------	----------

第3世界に暮らす人々の多くが貧しいというのは現実です。豊かな暮らしをしている者は、その貧困を「おくれ」と捉えがちです。つまり第3世界の人々、その社会・文化が本来的にもつ、いろいろな意味での「遅さ」が、結局貧困という結果を招いていると考えがちです。本講は、そう考えることのどこが間違っているかを具体的に知ることを目標とします。まずは、世界的視点で文化を見るとはどういうことか、という問いから始めて、文化を支える具体的基盤である政治・経済秩序の構造、その歴史を知ることの意味を確認します。そして、第2次世界大戦後の国際社会の経済・政治秩序の形成に焦点をあて、その過程で進んだグローバル化と、人々の暮らし(文化)の破壊(貧困や戦争)をふりかえり、さらにはその克服を展望する新しい動きにも理解を開いていこうと思います。

講座番号 12:「公的扶助論」（地域保健学域 教育福祉学類）	嵯峨 嘉子 准教授
--------------------------------	-----------

本講義は、社会保障制度の最後のセーフティ・ネットとよばれる生活保護制度について理解を深めることを目的としています。具体的には以下の内容を予定しています。
・公的扶助の概念
・公的扶助制度の歴史的展開(日本)
・生活保護制度の基本的な仕組み(目的、基本原理および保護の原則、保護の種類と内容、生活扶助基準額の算定方式、給付の仕組みと手続、等)
・生活保護制度の諸課題

講座番号 13:「環境生物学」（現代システム科学域）	中山 祐一郎 准教授
----------------------------	------------

人間の生命や生活を支える生物多様性の意義や重要性を理解するために必要な生物学の基礎を習得することを目標に、生物の進化と絶滅の歴史を軸にして、生物の分類、構造、遺伝、生活環、生態、生物と環境との相互作用などについて講義します。

講座番号 14:「共生社会と宗教」（現代システム科学域）	秋庭 裕 教授
------------------------------	---------

<目標>「グローバル化時代の宗教」を考察する。じつは、21世紀は「宗教の時代」なのである。今日宗教が分からなければ世界は分からない。21世紀、人類は異質との共生を樹立できなければ、未来は拓けない。このような視点から、今や宗教を理解することが決定的に重要なのである。

<授業計画の概要>
以下のような項目を講義する。
・エスニシティと宗教
・国家と宗教
・近代における宗教
・宗教のプレモダン／モダン／ポストモダン
・グローバル化時代における宗教の変容
・共生社会の必然性

講座番号 15:「地域福祉論A」（地域保健学域 教育福祉学類）	小野 達也 准教授
---------------------------------	-----------

地域福祉論Aの教育目標は、地域福祉の必要性や概念を理解することです。2000年以降、地域福祉は主流化したと言われていますが、その意味あいを考えます。講義の構成は3つに分かれています。はじめに、なぜ地域福祉が必要なのかを考察します。そのためには、現在の生活の仕組みやいかに社会福祉の対象が発生するかを学びます。次に、全体としての地域福祉を構築していくための枠組み、構成要件を考えます。最後に地域福祉に関する様々な考え方について検討します。地域福祉は、一部の人のためではなく、地域に住むすべての人に関わるもの、というのが基本的な姿勢です。

講座番号 16:「マイノリティと文化システム」（現代システム科学域）	萩原 弘子 教授
------------------------------------	----------

文化の形成を論じる視点の基礎をお話しします。私たちは「フランスの文化」「イギリスの文化」というように、国家を単位として文化を見ることをよくします。しかし文化は、国家のなかではどこも一樣というものではありません。また国家の境界を越えて文化的連続性や一体性がある場合もあります。国家境界内で文化が均質であるということはなく、差異があり、文化的マジョリティとマイノリティが存在するものです。本講では、西洋世界における近代国家が理念としてかかげた文化的一元性、また植民地統治方法としての文化的同化主義をふりかえりながら、文化の現実と、文化システムとしての国家を考えてみます。具体的にはスペイン、イギリス、フランスの国家による言語をめぐる文化政策に焦点をあて、現実の多言語状況と、国家による一元化政策の矛盾について講じ、批判的視点を培うことをめざします。

講座番号 17:「心の病理学」（現代システム科学域）	総田 純次 教授
----------------------------	----------

昨今、メンタルヘルスの重要性が強調されるようになり、保健所を中心としたうつ病や自殺予防対策、企業などでのメンタルヘルス管理の強化などの政策が施行されています。本講義では、将来臨床心理学を専攻する学生のみならず、比較的広い層を対象に、いわゆる「心の病気」について概説します。取り上げる予定は、認知症や譫妄といった高齢者に多い精神障害、統合失調症やうつ病という従来精神医学の主要な対象で精神障害、20世紀の終わりごろからクローズアップされてきたパーソナリティ障害、精神分析の主なフィールドであった神経症などです。それぞれの精神障害について視聴覚資料も用いつつその病像などを解説した後、精神分析理論なども援用しつつ、その心理学的メカニズムにも光を当てたいと思います。また治療法についても概説します。